



多職種連携を推進する医療機関と福祉施設のパートナーシップ

～板倉病院の実践～

医療法人弘仁会 板倉病院
事務長 増谷 征史

2025年8月24日
病院連絡協議会 第4回勉強会

CO I 開示

発表者名： 増谷 征史

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき
CO I 関係にある企業などはありません。

Index

01.船橋市・板倉病院の概要

02.船橋南部在宅療養研究会

03.入退院システムの導入

04.入退院システムの導入

05.最後に・・・





船橋市の特徴

人口 約65万人 高齢化率 24.4%

中核市・保健所政令市として最も人口が多い。
ベッドタウンとしていまだに人口増加中
市内でも都市部と過疎部がある。

都心まで30分という地理的な要因より
千葉都民といわれるくらい東京が身近
東京で治療を受ける頻度・意識が高い
(当院もがん研究センター中央病院・癌研有明病院の
千葉方面バックアップ医療機関)

患者さんも働き手も東京に目が行きがちである。

人口の更なる増加
高齢者独居増加
隣近所のコミュニティがない

効率的な医療・介護・福祉連携が必要

弘仁会 板倉病院

【病院概要】

基本理念：地域に根ざした、信頼される高品質な医療の継続

- 方針
- ・ 医の倫理に基づき、すべての患者様に誠意を持って、最善の医療を公平に行います。
 - ・ 都市型中規模病院として、地域に密着した顔の見える関係を目指します。
 - ・ 救急医療・予防医療・在宅医療の提供に努めます。
 - ・ 医療機関・施設・在宅との連携を密にして、期待に応える医療体制を整備します。
 - ・ 職員とその家族までも大切に、ワクワク、イキイキ、ニコニコできる病院を目指します

病床数：91床 急性期 10：1

年間救急車 2955台 平均在院日数 13.3日 病床稼働率 93%

診療科：

外科（消化器外科、肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、脳神経外科、肝胆膵外科）

内科（消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、腎臓内科、脳神経内科、

リウマチ・アレルギー内科）

整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科

皮膚科、婦人科、疼痛緩和外科、形成外科、心療内科、麻酔科



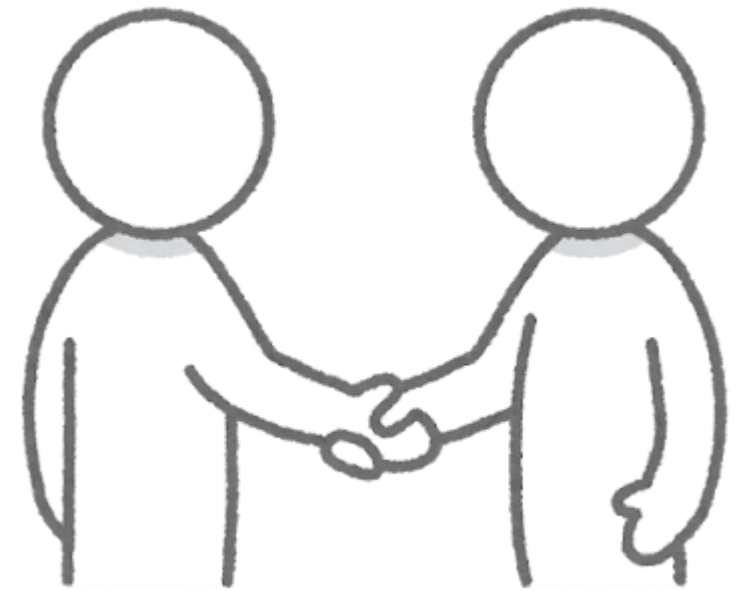
医療法人 弘仁会 沿革

- 
- 1940年 船橋外科病院として開設
 - 1953年 医療法人に変更、**医療法人弘仁会 板倉病院**として改名
 - 1977年 板倉病院を新築、病床数28床となる
 - 1980年 板倉病院を増築、病床数55床となる
 - 1995年 船橋市2次救急輪番病院となる
 - 1998年 **介護老人保健施設ロータスケアセンター**開設
(長期入所・短期入所・通所リハビリ)
 - 1999年 **ロータス訪問看護ステーション**開設
 - 2001年 全日本病院協会人間ドック指定取得
 - 2002年 **ロータス居宅介護支援事業所**開設
 - 2003年 訪問診療を開始
 - 2005年 **ロータスデイサービスセンター・ロータス保育園**開設
 - 2007年 船橋南部在宅療養研究会創設(事務局)
 - 2011年 **板倉訪問クリニック居宅介護支援事業所**開設
船橋市介護老人保健施設協会創設(事務局)
 - 2012年 強化型在宅療養支援病院認定取得
 - 2013年 日本リウマチ学会教育指定施設認定取得
 - 2015年 **新病院91床**竣工
 - 2017年 **画像検査センター**増築・地域画像連携開始
日本外科学会関連施設認定
 - 2018年 **板倉サテライトクリニック**開設
 - 2019年 日本医療機能評価機構 病院機能評価取得、新リウマチ専門研修認定教育施設認定
船橋市塚田地域包括支援センター開設
 - 2021年 **いたくら乳腺クリニック**開設
 - 2022年 日本整形外科学会専門医研修施設認定
 - 2023年 **新)船橋市塚田地域包括支援センター・ロータス訪問看護ステーション**開設
 - 2024年 **新)介護老人保健施設ロータスケアセンター**竣工
「在宅・医療において積極的役割を担う医療機関」認定



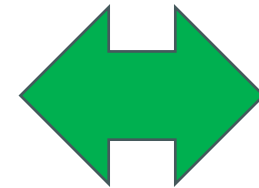
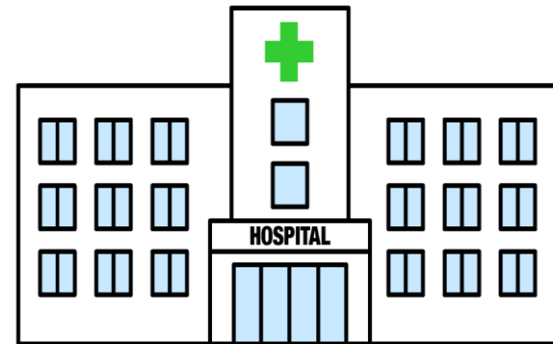
連携機関数

- 機能強化型連携医療機関（連携型） 12機関
- 提携医療機関（病院・診療所） 58機関
- 提携施設（特養・老健・有料） 41施設



福祉施設との連携の取り組み

- 船橋南部在宅療養研究会
- 入退支援システムの導入
- 地域連携ネットワークツール



船橋南部在宅療養研究会

- ・ 設立日：平成19年10月設立
- ・ 設立者：板倉病院 永谷 計医師
- ・ 設立の目的
顔の見える関係の構築
地域の医療・福祉従事者のスキルアップ
地域の課題の共有 など
- ・ 設立当初の参加機関数
18機関（内医療機関8機関 福祉事業所10機関）
- ・ 活動概要
 1. 地域における在宅療養に関する問題点の抽出を行う。
 2. 解決のための作業班を立ち上げる。
 3. プロジェクトを実行する。
 4. 結果を検証するため、学会・研究会に発表する。
 5. 会員が上記の情報を研究会で共有する。
 6. 燃え尽き症候群予防のため懇談会を行う。



永谷 計医師



高木 恒雄医師



久野 慎一医師

船橋南部在宅療養研究会の開催実績

- ・定期開催日 年8回 第2金曜日（7月～8月、12月～1月除く）
18年間で計119回の勉強会を開催

- ・市民公開講座 年1回

- ・年会費 医療事業所 5,000円 介護事業所 1,000円

- ・学会発表など

日本褥瘡学会学術集会

発表者 永谷 計

日本プライマリ・ケア連合学会学術集会

発表者 永谷 計

日本褥瘡学会・学術集会

発表者 八嶋 直子

日本褥瘡学会関東甲信越地方会学術集会

発表者 高橋 真琴

津田 鈴子

日本病院学会・全日本病院学会

発表者 増谷 征史

- ・活動班

動作介助班、褥瘡班、栄養班

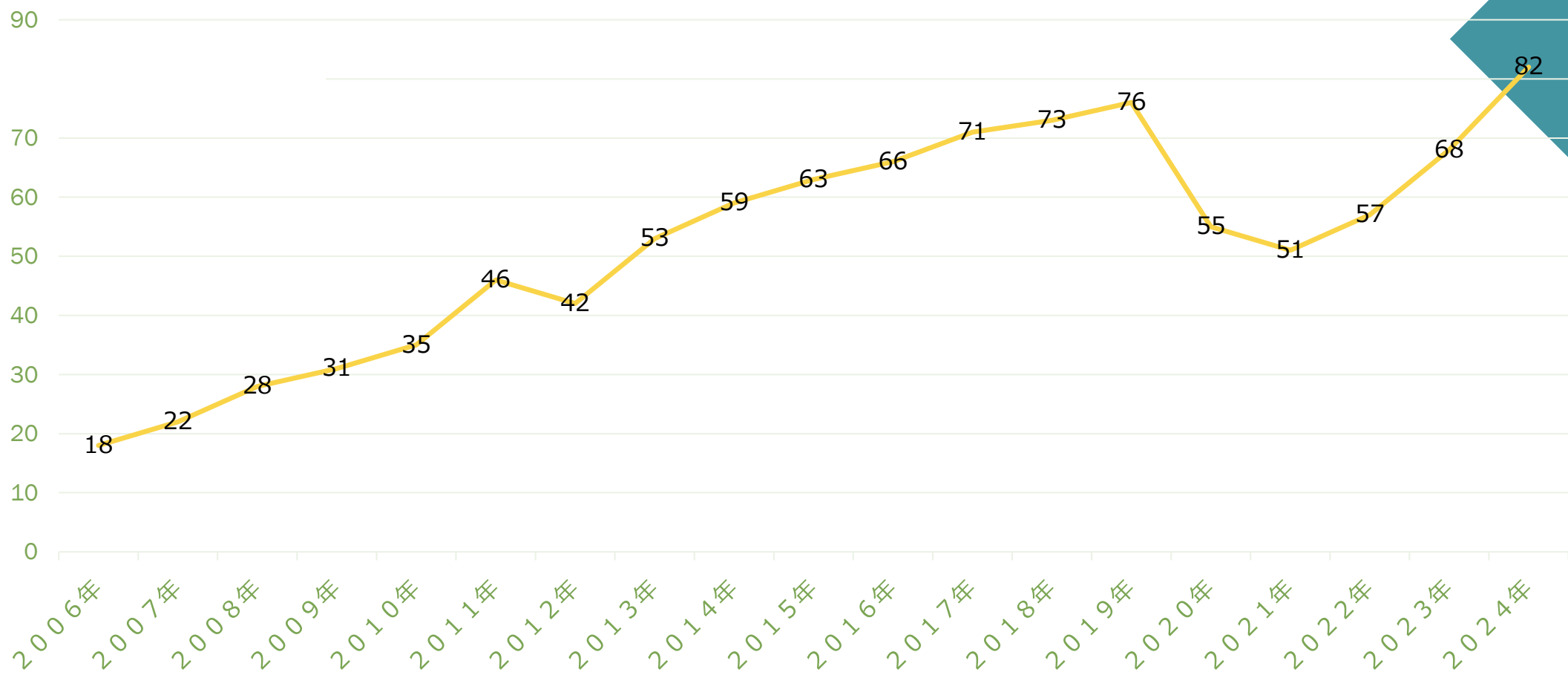
- ・その他法人の活動

船橋居宅ケアマネ研究会

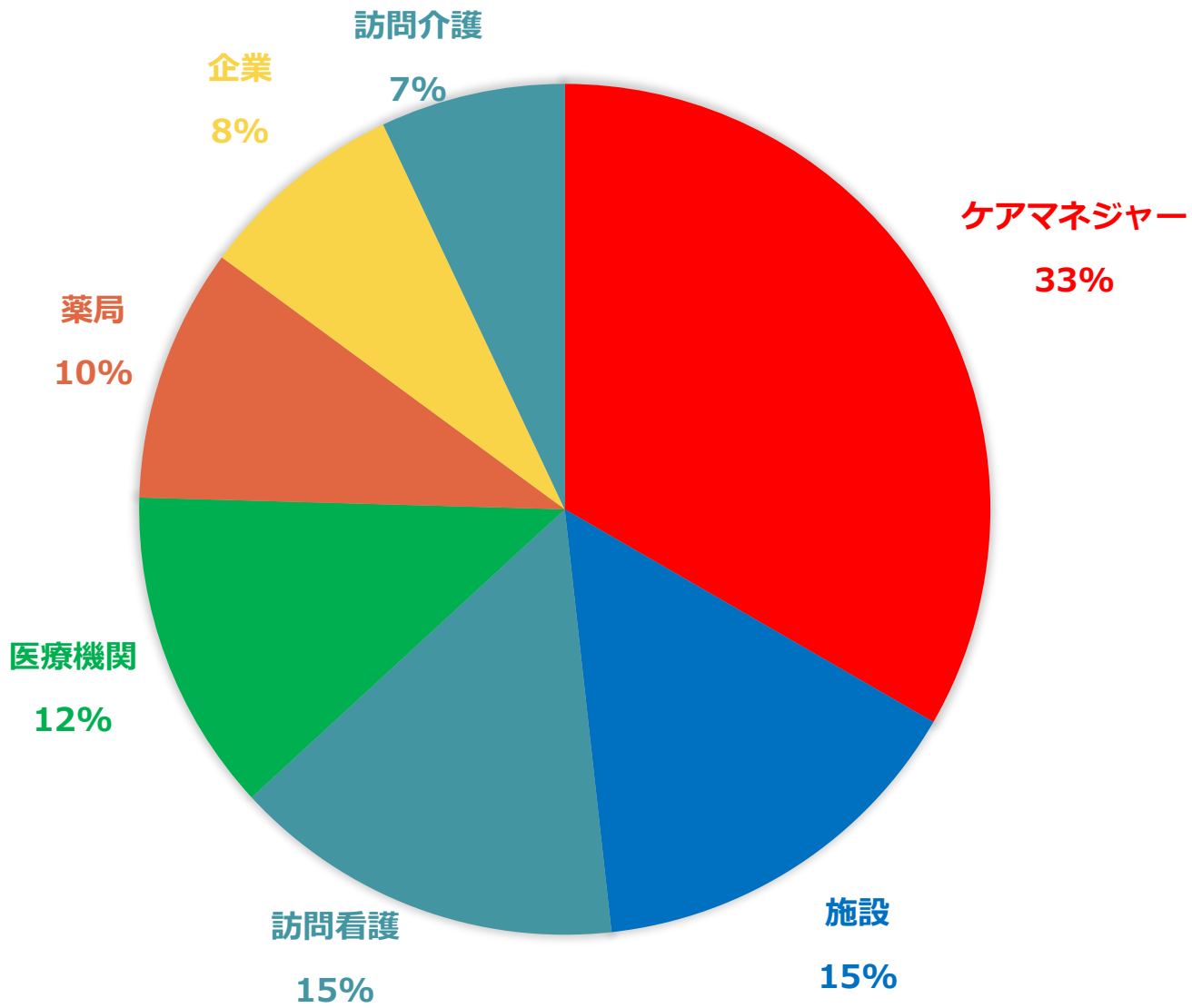


会員動向

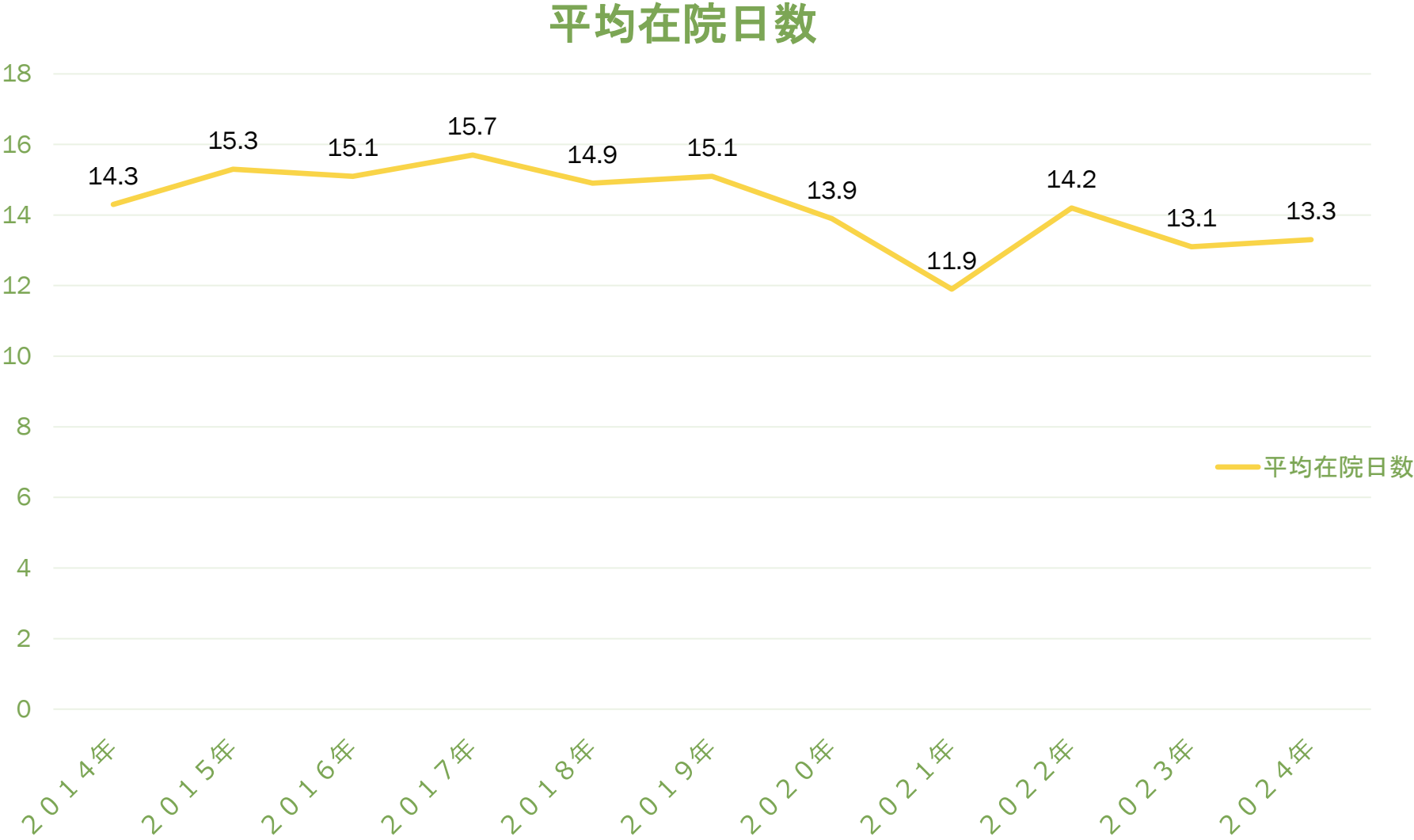
会員機関数



会員種別



在院日数の変化（病院全体）



COVID-19禍での開催

- ・オンライン開催

2020年9月よりZOOMを使用したオンライン研修会を開催

2023年3月

ハイブリット開催（集合型＋オンライン）

2023年4月

COVID-19発生後初めての集合型研修の再開

- ・オンライン参加者の声

- ・時間の制約がある中での参加なので、オンラインで気軽に参加できるのはありがたい。

- ・顔の見える関係構築の為には、集合型研修の開催が望ましい
早く多職種で集まれるようになってほしい

- ・オンラインでのグループワークの開催を検討してほしい

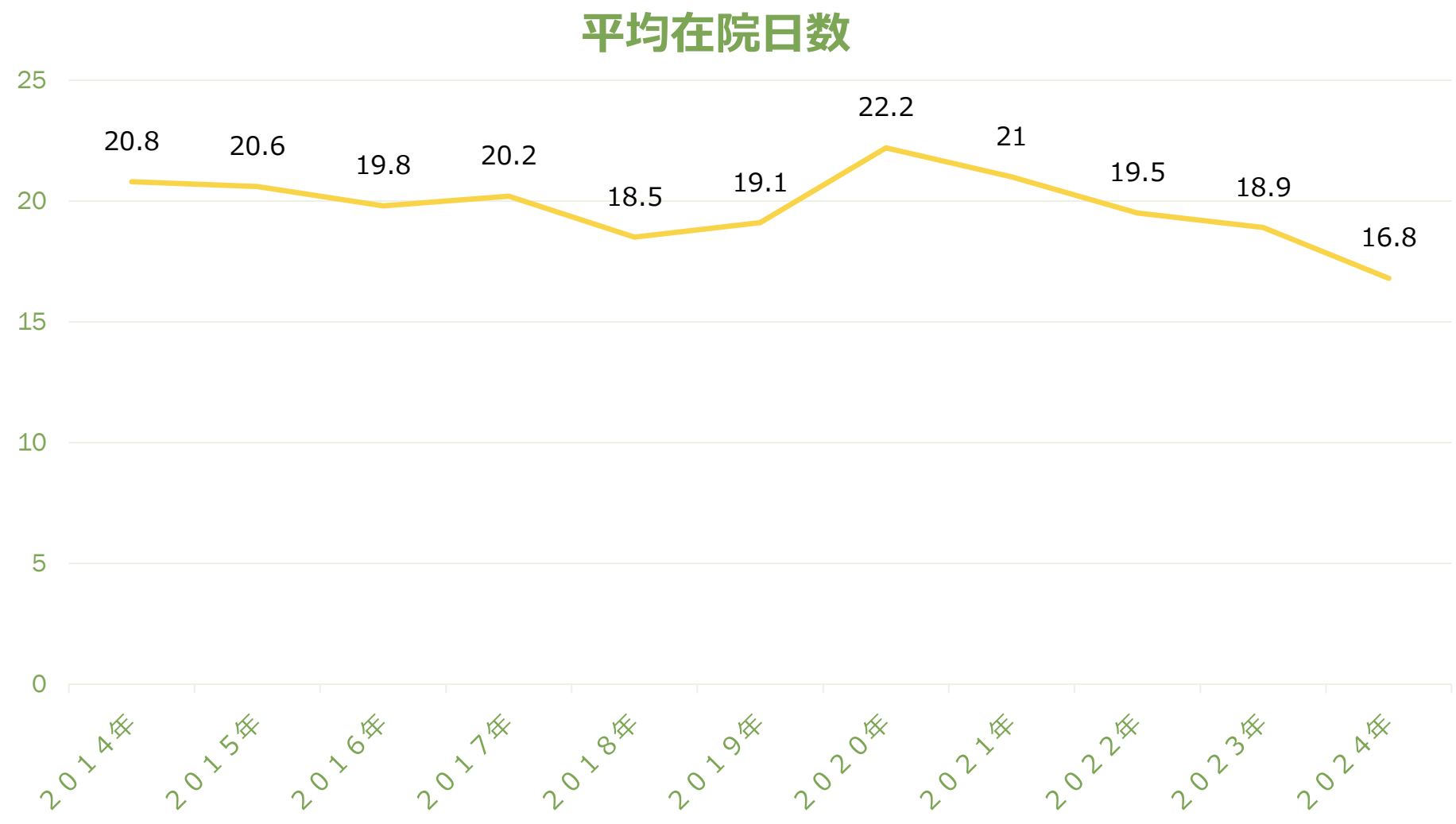


入退院システムの導入

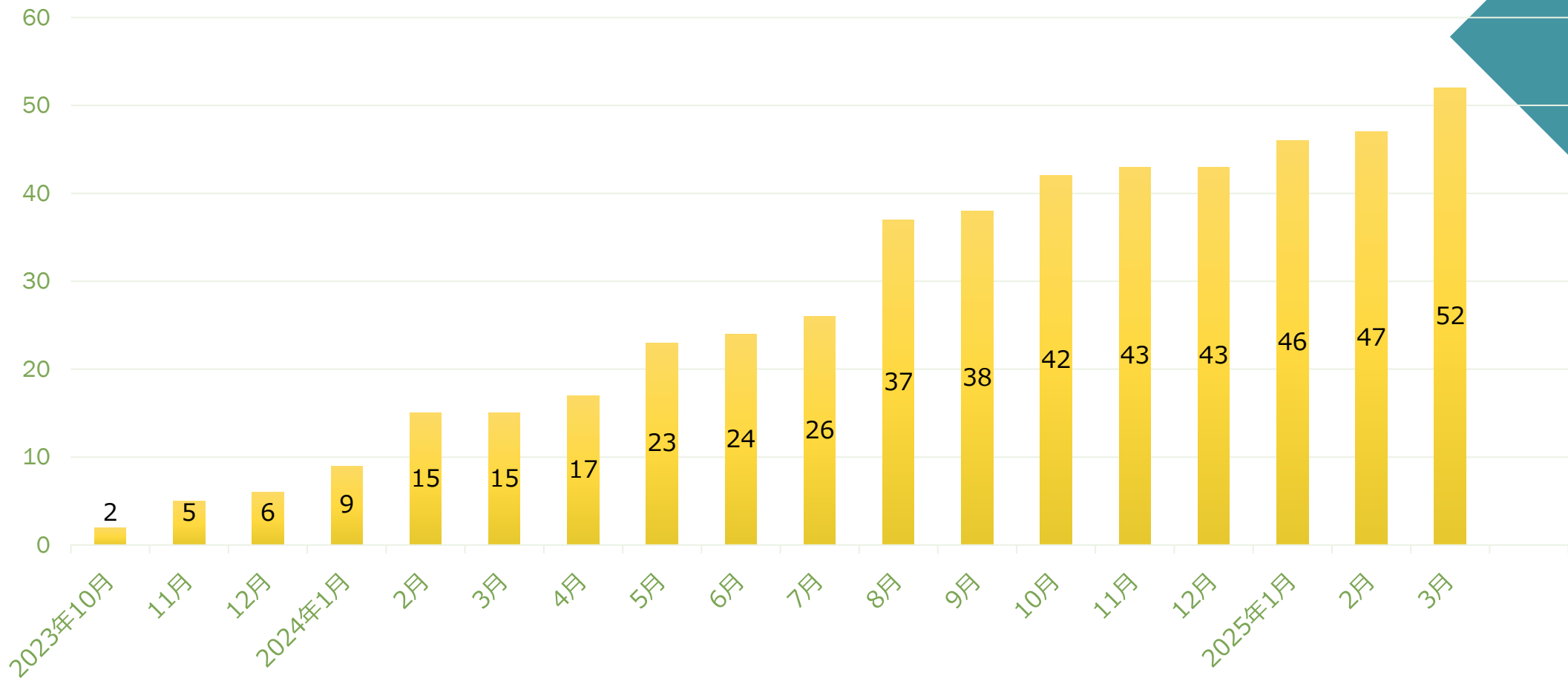
- ・目的
⇒在院日数の短縮
煩雑な退院支援（FAX・電話など）を解消
- ・条件
⇒病院も施設も利用料をかけない（通信量は除く）
- ・効果
⇒在院日数の短縮を実現
- ・実績
⇒現在 50 を超える機関が導入済



在院日数の変化（施設への退院）



システム導入件数の経過（船橋市外も含む）



関係ツールの活用（メドコム）

- 受診・入院相談
皮膚疾患などはカメラ機能を使用して受診の是非を問い合わせ
- 退院支援時のチャットの活用
- 退院時共同指導（退院前カンファレンスの実施）
- VPNによるセキュアな環境を確保
→利便性だけではなく個人情報保護等安全性を確保



最後に・・・

今後の課題

- ・南部研究会
世話人や既存会員の高齢化による退職・退会
⇒世代を超えた連携構築が必要！！
- ・入退院システムの運用継続・効率的な使用方法の模索
- ・施設への退院患者の在院日数の更なる短縮
→病院機能を保つためにも・・・

常に新しい風を入れて地域医療・福祉を活性化！

